

4. 新人技術演習－集合演習とOJT(On the job Training)が効果的にリンクする指導体制の構築－

秋田大学医学部附属病院 白川 秀子

【実践の概要】

当院は、2007年度より段階的に新人看護師の採用を増やし、2008年6月に入院基本料7:1を取得した。私は、2007年4月に副看護部長となり、教育を担当している。

従来、新人の技術演習は、部署のOJTに一任していたが、大量の新人看護師の受け入れを機会に、2007年度の新人研修より、集合での技術演習を導入した。指導は、看護部内各種委員会が担当し、委員会活動として定着することができた。集合技術演習(以下、集合演習とする)導入目的のひとつは、OJTに要する部署の負担軽減であった。集合演習導入より3年が経過し、当初の目的がほぼ達成された現在、集合演習とOJTが効果的にリンクできる体制の必要性を感じている。そこで、以下の実行計画を立案し、取り組んでいる。

【実行計画】

1. アクションプランの目標

- 1) 集合演習の指導者の意識改革をする。
- 2) 集合演習の指導者が、OJTでも指導者としての役割を發揮できる。
- 3) 病棟師長に対しては、集合演習の内容を説明し、継続してOJTにリンクさせる必要性への理解を得る。

2. 実行計画

時期	実践内容と方法
2009年12月～3月 (毎月1回1時間)	集合演習担当委員会の委員長が一堂に会して、次年度集合演習の計画を立案する。
2010年1月	看護部運営会議で、集合演習の指導者が、部署でも継続して指導者の役割を担ってもら体制の協力依頼をする。
2010年4月下旬～6月	教育担当師長と現場の巡回を行い、OJTの状況を把握する。教育担当師長は1回/週。教育担当副看護部長は1回/2週。
2010年5月	各部署で、採血・注射・薬剤調整の項目に対する評価を行う。
2010年7月	各部署で、輸液ポンプ・シリンジポンプの項目に対する評価を行う。
2010年9月	指導者は、OJTの進め方についての振り返りをレポートにして提出する。(A4 1枚)

【結果およびまとめ】

1. 2009年12月、集合演習担当委員会の委員長が一同に会して次年度の計画を立案した。その際に、教育担当副部長として、集合演習とOJTが効果的にリンクできるように、集合演習の指導者がOJTにおいても中心的に関わる体制作りを進めたいとの方向性を示した。集合演習とOJTの連携の重要性については、各委員長も同様に捉えていた。集合演習終了後は、受講者、指導者双方からアンケートをとり評価しているが、OJTの状況については、各委員会でも把握していなかった。私は、臨床現場の負担を考慮し、集合演習の指導者によるOJTの評価を次年度より実施することを考えていた。しかし、各委員長からは、今年度から評価しようという意見が出された。これは、想定外のことであり、各委員長が、これほど積極的に集合演習に関わっていることを知った事は、教育担当副部長である私の自信となった。
2. 2010年1月、看護部運営会議で、次年度は、集合演習とOJTが効果的にリンクする体制作りを目指すという方向性について口頭で説明した。部署での具体的な活動については、以下の2点について協力要請をした。
 - 1) 部署の教育計画は、教育委員と集合演習で指導を担当した者が、一堂に会して立案する。
 - 2) 指導者は、集合演習のシナリオを用いて、部署のスタッフに指導内容と方法を説明し、部署の指導が集合

演習の指導と乖離しないようにする。

上記内容は、師長の理解が得られ、集合演習とOJTのリンクの必要性について共通認識することができた。

【評価】

集合演習については、導入から3年が経過し、ようやくその体制が定着してきたところである。今までは、研修全体を統括する教育担当副看護部長も、各委員長も、集合演習を滞りなく実施することで精一杯であった。しかし、各種委員会の委員長が一堂に会して、次年度集合演習計画立案の際、OJTにおいて、集合演習の指導者の関わりが希薄であることが、課題として共通認識でき、今回の計画を進める第一歩になった。さらに、部署においても、教育委員と集合演習の指導者が共に話し合う必要性について、看護師長の理解が得られたことで、集合演習と部署におけるOJTが、より効果的にリンクできるように計画されるものと期待している。

実際の技術については、現在使用しているチェックリストを使用することで、できるだけ負担の少ない方法で評価することとし、最終的には、教育委員からの情報、演習を担当した指導者からの評価と現場の巡回で得た情報を統合させて評価する予定である。